

(2) 歴史的分野

公開授業指導案

授業の見どころ

県社研では、地元の教材を活用することにより、歴史を身近に感じるとともに、人物の生き方に学ぶことの意義も提案しています。

ここでは、小学校で学習した「秀吉の天下統一」に、どのように味付けをしていくか、教材と発問に工夫をしてみました。教師自らが地域の歴史に学びつつ、生徒の実態に合わせてかみくだいて教材化することに苦心しました。

中学1年生に、太閤検地の理解を深め、地元の歴史への興味・関心を高めることができるかがポイントです。



日時	平成15年11月25日(火) 2校時
場所	岱明町立岱明中学校 1年1組教室
年組	1年1組 32人(男子18人 女子14人)
指導者	岱明町立岱明中学校 教諭 笠 聡一郎

1 単元名 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」

2 単元について

- (1) 本単元では、戦乱の続く室町時代末期に、ヨーロッパから鉄砲とキリスト教が伝来し、織田信長が天下統一の事業を進め、さらにその後を引き継いだ豊臣秀吉が全国を統一する時期である安土・桃山時代を学習する。

この時代は、中世から近世への転換期として位置づけられ、社会が大きく変化した時期である。特に、それまで農村に住んでいた人々が、農耕に従事する農民と、城下町に住み農耕から離れる武士や職人・商人たちとに区分されて、兵農分離が進んだ時期である。

鎌倉幕府以来、土地を媒介にした主従関係を結んできた武士たちは、在地領主であり、先祖代々の領地に住み、それを維持することを使命と考えてきた。しかし、太閤検地はこうした在地領主制を否定した。この大きな変革に対し各地で抵抗が起きたが、武力による抵抗の一つが「肥後国衆一揆」である。熊本において、中世から近世へ移行する契機となった「肥後国衆一揆」に焦点を当てて学習を進めることは、地域の歴史への興味を高めるとともに、一地域の事例から全国の社会の変化を見通すことや、秀吉による全国支配のための政策を具体的に理解することに効果があると考える。

太閤検地は、標準収穫高を「石高」で表す石高制に統一し、一地一作人として、直接、領主が領民を支配するようにした。その結果、農村の土豪層などの中間搾取(作合)を認めず、土豪層から土地を取りあげることになるとともに、農民にとっては、課税を免れていた隠し田や生産増による得点を失うことになった。そのため、反対の一揆が各地で起こっている。肥後でも、検地を実施しようとした佐々成政に対して国衆たちが反抗している。その戦いは、1587年に起き、山鹿市の城(城村)や三加和町の田中城(和仁城)の戦いが有名である。これら「肥後国衆一揆」に対し、秀吉は九州各地はもとより中国・四国地方の大名も動員して鎮圧した。そして、戦いから約半年後の1588年には刀狩令を出している。このようにして肥後の旧勢力は一掃され、新しく加藤清正らが入国し、近世の支配体制へと移行したのである。

「肥後国衆一揆」では、その原因や背景を理解するとともに、成政や秀吉に抵抗した理由を考えさせたい。そして、検地を実施することにより、従来の間接支配が直接支配へと変化し、城下町に住む武士と農村に住む農民との区分が居住地によって明確にされたことをとらえさせたい。

このような学習を通して、秀吉が武力による全国統一を進めながら、その支配を確実なものにするために経済的な基盤を確保したことや、民衆による反抗をおさえるしくみを確立したことを理解し、さらには、それが海外進出への布石であったことにも気づかせたい。

また、生徒がもつ天下統一のイメージは、京都を中心として英雄たちによって繰り広げられた印象が強いため、当時の熊本ではどのような動きがあったのかを組み込むことにより、歴史を身近なものに感じ、今後も地域の歴史に対して関心をもつうえで意義があると考えられる。

- (2) 本学級において4月におこなった調査(調査時31人)によると、小学校の歴史学習では、地域の歴史に関する教材を用いた授業は実施されておらず、時数が削減された影響もあってか、教科書に記述されている内容を順にとどまっている。したがって、「肥後国衆一揆」についてはクラスの全員が知らなかった。

また、単元に登場する人物や出来事に関する調査では、次のような結果が出た。

・信長、秀吉、家康の名前は知っている：	31人
・信長、秀吉、家康が活躍した順序を知っている：	20人
・語句を知っている：	検地(13人/31人)、刀狩(29人/31人)、兵農分離(3人/31人)
・内容を理解している：	検地(8人/31人)、刀狩(19人/31人)、兵農分離(1人/31人)

語句は知っているが、理解度は下がる。また、刀狩よりも検地の方が理解度は低い。このように、言葉としての知識の定着と、具体的な内容の理解やその意義、影響などの理解が十分とはいえない。検地に関しては「田畑の面積を測ること」と理解している生徒も多い。

本学級は、仲のよいクラスであり、協力的であるが、発表には消極的な生徒が多い。

- (3) 指導にあたっては、小学校の学習において、理解があいまいな内容について補充しつつ学習を進めたい。また、「肥後国衆一揆」については、単なる地方の出来事として扱うのではなく、熊本における中世の支配体制から近世の支配体制への転換点における重要な出来事として位置付けるとともに、秀吉による全国統一の新しい支配体制が検地や刀狩によって確立していくことや、その支配が安定し継続できるように政策が工夫されていることも関連させながら学習を進めたい。

また、一人一人の学習課題への関心を高め、教科書や資料集あるいは参考図書などを効果的に使いながら解決していく能力を伸ばすとともに、相互に教え合ったり協力したりする態度を育成したい。

3 単元の学習目標

- (1) 戦国時代から全国が統一される時期に登場する人物に関心を持ち、意欲的に追究することができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 人物の行為や判断について、手がかりとなる材料をもとにしながら、行為や判断の理由を考察することができる。(社会的な思考・判断)
- (3) 絵図や文書をもとに、適切に活用したり、表現したりできる。(資料活用の技能・表現)
- (4) 戦国大名は、支配を強固にするために鉄砲などの新しい武器を使用する一方で、財源を確保するために貿易や検地をおこなっていたことを理解する。さらに、信長や秀吉は武力によって他の戦国大名を屈服させ、検地や刀狩により兵農分離を進め、全国を支配していったことを理解する。(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の指導計画(9時間扱い)

次	題 材	主な学習内容	配当
1	鉄砲とキリスト教の伝来	戦国大名の中には、これまでの荘園制を否定し、領国を統一して支配する大名が現れた。 戦国大名は、支配を広げて確かなものにするために、新しい武器として鉄砲を手に入れ、利益を得る手段としてヨーロッパとの貿易を積極的に取り入れた。	1時間

2	ヨーロッパ人來航の背景	技術の発達により海外への進出と植民地の獲得が可能になり、ヨーロッパの国々が植民地を広げた。 キリスト教会の腐敗が宗教改革を招き、カトリックのイエズス会が、新しい市場としてアジアへの布教を目指した。	1時間
3	織田信長による統一事業	信長は、戦闘の武器として鉄砲を取り入れ、楽市・楽座等の経済政策で財力もつけつつ支配を広げ、さらに、その支配を安定させるために一向宗の弾圧もおこなった。	1時間
4	肥後国衆一揆と太閤検地	信長の政策を引き継いだ秀吉は、武力によって全国の統一を成し遂げた。支配を安定させるためには経済力も必要であり、検地を行った。全国統一の過程において、秀吉は肥後へも攻め込み、国衆たちは戦わずに降伏し、領地安堵の約束を得た。 肥後の各地に割拠していた国衆たちは、新領主の佐々成政が検地を実施しようとしたことに反発して一揆を起こし、敗れた。 検地によって、荘園制や中間搾取層が否定され、秀吉は、より確実に、より大量の年貢を徴収できるようにした。 秀吉は全国支配を完成させるため、検地と刀狩を軸にして兵農分離を図り、武士が土地と切り離される近世の体制へと移行させた。	4時間 本時 (3/4)
5	朝鮮侵略	秀吉は、海外へ進出することで領土の拡大を図ったが、その失敗が、没落の原因となった。	1時間
6	桃山文化	戦国大名の強大な武力や財力を示すような城郭建築や、勇壮な屏風絵などにみられるような豪華さが桃山文化の特徴である。 南蛮貿易により、ヨーロッパの文化も入り、服装や建築物などにも影響を与えた。	1時間

5 単元における基礎・基本

	基礎	基本
「社会的資質」 (社会的事象への関心・意欲・態度)	全国統一の過程について関心を持ち、意欲的に調べようとする。	全国統一の過程について、教科書や資料集などを使って自分で意欲的に調べる。
「社会的な思考・判断」	時代状況を手がかりにしつつ、人物の行為や判断の理由を自分なりに考察する。	信長や秀吉の政策の目的や内容、影響や時代背景などを多面的・多角的に考察できる。
「社会的な探究の仕方」 (資料活用の技能・表現)	絵図や文書等をもとに、自分なりに適切に活用できる。	絵図や文書等を総合的に活用できる。
「社会的知識」 (社会的事象への知識・理解)	信長や秀吉をはじめとする戦国大名らが何をしてきたか、概要を理解する。	信長や秀吉をはじめとする戦国大名らが、なぜ、何を、どのように実施してきたかを、世界や熊本の動きと関連させて理解している。

6 題材名 「肥後国衆一揆と太閤検地」

7 本時の学習

(1) 目標

太閤検地は、支配を安定させ、年貢をより確実により多く集めて経済的な基盤をつくるための政策であることを理解する。

太閤検地によって、農村に住む有力な武士たちの存在意義が否定され兵農分離が進められたことを、「肥後国衆一揆」の学習と関連させて身近にとらえることができる。

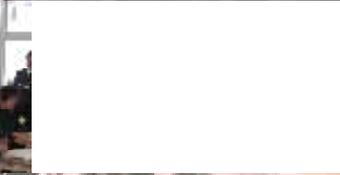
(2) 展開

学習活動	時間	教師の支援	教材・教具・資料	基礎・基本
1 本時の課題を確認する。	3分	佐々成政や秀吉が相手であっても引き下がれなかった国衆の行動に関心を持たせる。	前時に使用した資料 (国衆一揆)	
なぜ、国衆たちは命がけで検地に反対したのだろうか (秀吉が、検地を徹底した理由は何だろうか)				
2 検地の内容を確認する。 (1)知っていることを発表する。 (2)年貢はどうやって決められたのか知る。	15分	前時までに学習した内容(田畑の面積や良し悪し、収穫高、耕作人を調べて確定)を確認する。 5人家族で5反の水田、5反の畑、1反の屋敷をもつ百姓の例を参考に具体的に示す。 検地では、農民の隠し田や生産増による得点が明らかにされる結果増税となることや、中間搾取していた層が否定されてしまうことに気づかせる。	図、教科書 プリント 学習シート 図	(4)
3 検地による農民や武士の生活の変化を整理する。 (1)国衆の立場を中心にして、それぞれの変化を考える。 国衆たち 農民 秀吉 (2)各班が発表する。	20分	検地前と検地後の変化をわかりやすく示し、考えをまとめやすくする。 マイナスが多い国衆たち、プラスもマイナスもある農民、プラスが多い秀吉という違いをとらえさせる。 学習内容をふまえて考えるように助言する。	学習シート ホワイトボード	(4)
4 国衆が検地に反対した理由をまとめ、検地の目的を知る。	5分	土地や収入が奪われることを確かめる。	学習シート 図	(3)
5 検地前と検地後の違いを図で説明する。	5分	住んでいる場所、兵と農の区分を明確に理解させる。 経済的な安定に加えて、武力的な安定を得るために刀狩令も出したことを話す。		
6 本時のまとめと次時の予告をする。	2分	次に秀吉は何を考えるか。		

基礎・基本の定着を見取るための評価方法

- (4) ... 4つの項目をすべて理解しているか、挙手のようすから確認する。
- (4) ... それぞれの立場や目的をふまえた記述ができているか、学習シートで確認する。
- (3) ... 兵農分離の図が書けているかどうかで確認する。

授業風景



主要参考文献及び論文

- 【01】 荒木栄司『肥後国衆一揆』熊本出版文化会館（1987年）
- 【02】 安良城盛昭『太閤検地と石高制』日本放送出版協会（1969年）
- 【03】 池上裕子『日本の歴史 15 織豊政権と江戸幕府』講談社（2002年）
- 【04】 甲斐里香「中学校社会科における授業構成-「幕藩体制」の授業モデル-」熊本大学教育学部卒業論文（1987）
- 【05】 國武慶旭「田中城の国史跡指定に向けて」『歴史玉名』 47（2001年）
- 【06】 久留島典子『日本の歴史 13 一揆と戦国大名』講談社（2001年）
- 【07】 佐々木潤之介編『日本民衆の歴史 3 天下統一と民衆』三省堂（1974年）
- 【08】 「新・熊本の歴史」編集委員会『新・熊本の歴史 4 近世（上）』熊本日日新聞社（1979年）
- 【09】 森田誠一『熊本県の歴史』山川出版（1972年）
- 【10】 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書（1978年）